

はしがき

2012年12月の衆議院総選挙の結果、自民党が政権に復帰し、13年の参議院通常選挙を経て明文改憲に向けての動きが一層増している。臨時国会では、「国家安全保障会議（日本版NSC）」創設関連法案、特定秘密保護法案が上程され、国民世論やマスコミなどからその問題点、危険性が指摘され、研究者の反対声明が相次いで出されている。

本書は、このような緊迫した改憲動向を分析し、広くみなさんに紹介することにより今後の憲法運動に役立てていただくことを目的にしている。検討の素材として、自民党の「日本国憲法改正草案」（12年4月27日）と「日本国憲法改正草案Q&A」（10月）を中心に現在の改憲動向を紹介し、批判しているが、他の明文改憲案や国会の憲法審査会の状況も合わせて検討している。

本書の構成は、「第Ⅰ部 いまなぜ改憲か?」において、改憲の動きの背景、改憲動向を検討し、「第Ⅱ部 改憲論の焦点」では改憲論の個別論点ごとに改正草案やQ&Aでふれられていない憲法問題にも論及している。「第Ⅲ部 改憲問題と主権者の選択」では、「国民が政治の主人公」という「主権者意識」を呼び起こし、改憲問題に立ち向かうことを提起している。

今後安倍政権は、憲法改正手続法の改正、集団的自衛権の行使に向けた論議、武器輸出3原則の抜本見直し、防衛計画大綱の見直しなどを予定し、明文改憲への準備や憲法9条を事実上骨抜きにする動きに踏み出そうとしている。

国民をとりまく厳しい生活状況を考えると、現在は、「改憲を声高に主張する」状況ではなく、「憲法をくらしに生かす」ことこそが求められていると、私たちは思っている。できるだけ多くの方々が本書を手にとりいただき、現在の改憲動向に関心をもってくださいることを願っている。

2013年11月

編者を代表して 木藤伸一郎